

蛇蟲

姓貳人、山深く木こりに入りしに、其ふとさ四斗桶ばかりにて、長さ八九尺ばかりなる大蛇草の
まげれる間よりさばと出て追來る、のがれ得べうもあらざれば貳人ともに取てかへし、木こる
那刀なたもて、命をかぎりに働しに、つゝるに大蛇を打殺ぬ、略中かく短くふとき蛇もあるものにや、
〔大和本草十四クチナハ〕蛇略中 日本ニ中國ノ小蛇コクナハトテ、安藝ニ蛇神アリ、又タウベウト云、人家ニヨリテ、
蛇略神ヲツカフ者アリ、其家ニ小蛇多クアツマリ居テ、他人ニツキテ災ヲナス事、四國ノ犬神、備前
ノ兒島、狐ノ如シ、略下

〔明月記〕建久七年四月十七日丙寅、新日吉近日有蛇、男一人、隨其蛇、吐種々狂言稱蛇託宣、又云、後白
川院後身也云々、此事不便書奏狀進之云云、殿下兼藤原實仰云、是可追拂事也、奉爲故院甚見苦事也、

蛇利用

〔延喜式三十七〕諸國進年料雜藥
伊賀國廿三種略中 蛇脫皮一兩尾張、近江、美濃、丹波、丹後、所進亦有

〔本草和名十六〕蛇音仁蛻音稅 一名龍子衣、一名蛇苻、一名龍子皮、一名龍子單衣、一名弓皮、和名倍
美乃毛奴介

喰蛇

〔康賴本草下魚部下品〕蛇蛻 味鹹甘平无毒、和返美乃毛奴計、五五又十五日採之、
〔今昔物語三十一〕太刀帶陣賣魚、語第卅一

今昔、三條ノ院ノ天皇ノ春宮ニテ御マシケル時ニ、太刀帶ノ陣ニ常ニ來テ魚賣ル女有ケリ、太刀
帶共此レヲ買ヒテ食フニ味ヒノ美カリケレバ、此レヲ役ト持成シテ菜料ニ好ミケリ、干タル魚
ノ切々ナルニテナム有ケル、而ル間八月許ニ太刀帶共、小鷹狩ニ北野ニ出テ遊ケルニ、此ノ魚賣
ノ女出來タリ、太刀帶共女ノ顔ヲ見知タレバ、此奴ハ野ニハ何態爲ルニカ有ラムト思テ馳寄テ
見レバ、女大キヤカナル籬ヲ持タリ、亦楚一筋ヲ捧テ持タリ、此ノ女太刀帶共ヲ見テ、恠ク逃目ヲ
仕ヒテ只騒ギニ騒グ、太刀帶ノ從者共寄テ女ノ持タル籬ニハ、何ノ入タルゾト見ムト爲ルニ、女